

## 1 新発見米軍写真の概要

- ①空襲・撮影部隊 沖縄移駐「米陸軍第5航空団第3爆撃機群団」  
第8・13・89・90爆撃戦隊
- ②該当機 軽爆撃機「A20」もしくは「A27」
- ③投下爆弾 「増設燃料タンク使用のナパーム弾」及び「落下傘付きM76焼夷弾」
- ④投下場所 「①桜町・新市街、②熊本駅・機関庫・春日校、③岡村鉄工所、④市立商工学校・一新校」を特定し、⑤～⑥新町・島崎方面を想定  
※添付の8／10空襲地点特定地図・リーフ内地図を参照ください。

## 2 写真入手の経緯と発表経緯・リーフレット無償配布

- ①当時、鹿児島県いちき串木野市在住の今吉孝夫氏が、米国在住のWilliam.J.Swain氏から、米国立公文書館所蔵の第3爆撃機群団関連写真約1000枚を2019年3月に入手。
- ②その後、米国立公文書館とのやりとりで各部隊戦闘報告書と照合を行い、空襲・戦災を記録する会全国連絡会議の工藤洋三氏との共同調査を開始した。2019年8月からは、くまもと戦跡ネット高谷も参加し、熊本市内各所の爆撃地点特定作業を進めた。
- ③高谷による空襲概要・空襲地点等の特定作業がほぼ完了したことから、戦後75年節目の7月発表となった。
- ④現在、熊日文化スポーツ活動助成金を利用し、添付の啓発リーフレット『空襲下の熊本』を作成中。8月初旬に完成し、大西熊本市長・蒲島熊本県知事に、概要報告とリーフレットの無償提供を予定。

## 3 新発見写真の意義・歴史価値

- ①熊本空襲に関するまとまった米軍空襲写真の新発見  
※これまで7／1空襲は「焼け野原となった市街地・新市街」写真、8／10空襲は「九品寺の熊本紡績への空襲・煙硝」写真の各1枚が確認されている。
- ②市内各所（目標）へのリアルな焼夷弾等の空襲状況が判明する新資料  
※2017年7月下画図発見不発弾「M76落下付大型焼夷弾」資料は本会で報告・公開済み
- ③第1回から第2回熊本大空襲へとつながる米軍の空襲意図が想定できる新資料  
第1回のB29による中小都市への戦略爆撃から、各都市への徹底した戦術爆撃、さらにはオリンピック作戦の前哨戦ともいべき南・中九州への敗戦直前の沖縄移駐の米陸軍機による空襲

## 4 キャプション

掲載キャプションは「William.J.Swain氏・今吉孝夫氏所蔵、くまもと戦跡ネット高谷和生提供」でご記載ください。

### 空襲場所・撮影箇所の特定作業

順次特定ができた箇所について、HP内で紹介します。